

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

1. 化学物質等及び会社情報

製品名： NASKALUB 420mL
 会社名： 化研産業株式会社
 住所： 〒110-0015 東京都台東区東上野5-12-5
 担当部門：
 緊急連絡電話番号： 電話番号 03-3841-5771 / F A X 番号 03-3845-1425

2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性： この商品は、記載の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し取扱って下さい
 危険物第4類 第4石油類(消防法 危険物)

GHS分類		区分
物理化学的危険性	可燃性/引火性エアゾール	区分1 (シンボル:炎、注意喚起語:危険)
	支燃性/酸化性ガス類	区分外
健康に対する有害性	金属腐食性物質	区分外
	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	区分4 (吸入すると有害:イソブタン)
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性、単回暴露	区分2 (心臓:イソブタン) 区分3 (麻酔作用:プロパン、ノルマルブタン、イソブタン)
	特定標的臓器毒性、反復暴露	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	区分外	
水生環境有害性(長時間)	区分外	
上記に記載されていないものは分類対象外または分類できない。		

GHSラベル要素

絵表示:



注意喚起語:

危険

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

危険有害性		極めて可燃性／引火性の高いエアゾール 高圧ガス;熱すると爆発するおそれ 吸入すると有害 呼吸器への刺激のおそれ 心臓の障害のおそれ 眠気やめまいのおそれ
注意書き:	安全対策	すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 眼、皮膚、鼻、のどへの接触をさけ、保護眼鏡、作業革手袋、保護衣を使用する 本来の用途以外の使用はしないこと。
	応急措置	漏洩ガス火災の場合、漏洩が完全に停止されない限り消化しないこと 吸入した場合：直ちに新鮮な空気の場合に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 接触した場合：液体に接触すると凍傷になる可能性があるため、患部をぬるい水につける。 汚れた衣服は、再使用前によく洗うこと。暴露または懸念がある場合、医師の診 断手当てを受けること。 暴露したとき、または気分の悪いときは、医師に連絡すること。
	保管	日光から遮断し、換気のよい場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと 子供の手の届くところには置かないこと。 施錠して保管すること。
	廃棄	火気のない戸外でガスを完全に抜いてから廃棄すること。 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に 業務委託すること。
GHS分類に該当しない 他の危険有害性		密閉した空間で放出されると酸素濃度の減少による窒息のおそれがある。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物
成分及び含有量

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化学式	化審法No.	安衛法No. 通知対象 物質	PRTR法No.	毒劇物法	
潤滑油基油	45	非公開	非公開	非公開	168	非該当	非該当	
潤滑油添加剤	5~15	非公開	非公開	非公開	既存物質	非該当	非該当	
L P G	45	プロパン	74-98-6	非公開	(2)-3	2-13-48	非該当	非該当
		ノルマルブタン	106-97-8	非公開	(2)-4	非該当	非該当	非該当
		イソブタン	75-28-5	非公開	(2)-4	非該当	非該当	非該当

注) 化審法No : 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)官報公示整理番号

安衛法No : 労働安全衛生法(安衛法)第57条の2第1項政令指定物質の政令番号

PRTR法No : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に
関する法律(PRTR法)対象化学物質の政令番号

毒劇法No : 毒物及び劇物取締法の政令番号

化学特性(化学式)

潤滑油基油 非公開

潤滑油添加剤 非公開

LPG

プロパン 非公開

ノルマルブタン 非公開

イソブタン 非公開

官報公示整理番号(化審法、労働安全衛生法)

潤滑油基油 化審法 : 非公開 労働安全衛生法 : 168

潤滑油添加剤 化審法 : 非公開 労働安全衛生法 : 既存物質

LPG

プロパン (2)-3

ノルマルブタン (2)-4

イソブタン (2)-4

危険有害成分

化学物質管理促進法 非該当

労働安全衛生法 非該当

毒物劇物取締法 非該当

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

4. 応急措置

吸入した場合： 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、酸素欠乏の措置を行う。必要に応じて速やかに医師の手当てを受ける。呼吸が止まっている場合または呼吸が弱い場合は衣服を緩め、気道を確保した上で、人工呼吸を、場合によっては酸素吸入を行い、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合： ガスの接触では影響はないが、液体に接触すると凍傷になるおそれがある。濡れた衣服を直ちに脱がせる。衣服が凍り付いて取れないときは無理にとらないで、その他の部分のみ衣服を切り取る。付着部(患部)をぬるい水につける。(熱いお湯につけない、患部をこすらない) 早期に医師の診断を受ける。皮膚が破れている場合は菌に感染することがあるので、水にはつけないで医師の手当てを受ける。

眼に入った場合： 液体に接触した場合は直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受

飲み込んだ場合： 無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐かせるとかえって肺への吸引等の危険が増す。口の中が汚染させている場合には、水で十分に洗浄する。

最も重要な徴候症状： 許容濃度を超えた高濃度の吸入暴露により、吐き気、頭痛、めまい、錯乱、倦怠感(思考力減退)、(筋肉の)協調運動失調、意識喪失のような麻酔製の一時的な中枢神経機能の低下を生じるおそれがある。また、心拍が不規則になったり、心臓が止まったりすることもある。過去に中枢神経や心臓に病歴がある人ほど、過度に吸入したときの影響が増幅される。液体に接触した場合、凍傷になる。

応急措置をする者の保護： 必要に応じ、ゴム手袋、防護マスクなどを着用する。

医師に対する
特別な注意事項： データなし

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

5. 火災時の措置

消火剤:	粉末消火剤、炭酸ガス、泡消火剤、霧状の消火剤。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の場合には、泡消化剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない 消火剤:	棒状の水。火災を拡大し危険な場合がある。 注水は火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性:	火災の現場にエアゾール容器があると破裂するおそれがある。 加熱により容器からガスが噴出した場合は、炎により有害ガスが分解生成するおそれがある。
特有の消火方法:	作業は風上から行い、火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 火元の燃料源を断つ。大規模火災の場合は泡消火剤を使用して消化する。 指定の消火器を使用すること。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂するおそれがあるので、 消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等を かけて冷却する。 延焼のおそれがないよう噴霧水で周辺のタンク、建物等の冷却をする。 移動可能な場合は、容器を速やかに安全な場所へ移す。
消火を行う者の保護:	消化者は必ず適切な保護具(防護服又は防火服、ゴム手袋、ゴム長靴等)を 着用し、有毒ガスが発生するため、防毒マスク、空気呼吸器又は循環式 酸素呼吸器等を装備する。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置：

大量に漏れた場合は処置関係者以外安全な場所に退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張る等して、人の立ち入りを禁止する。

室内の処置作業は酸欠の可能性があるので、換気するか空気呼吸器を使用する。暴露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。

漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。

ガス密度が空気よりも大きいので、低い場所や密閉された場所に溜まりやすいので注意する。

着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

漏洩物に触れたり、その中をむやみに歩いたりしない。

密閉した場所に入る前に換気する。

床に漏れた状態で放置するとすべりやすくなりスリップ事故の原因となるため注意する。

環境に対する注意事項：

ガスは極力大気への放出を避ける。

漏出液を下水や側溝等に流してはならない。

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び
浄化の方法及び機材：

廃棄物は関係法規に従い処理すること。

回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。

少量の場合には、土砂、ウエス等に吸着させ空容器に回収し、その後をウエス等で拭き取る。

大量の場合には、漏洩したオイルは土砂などで流れを止め、安全な場所に導いた後、できるだけ空容器に回収する。

海上の場合には、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸取る。

薬剤を用いる場合は、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

二次災害の防止策：

付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

(熱分解の防止)ともに消火剤を準備する。

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は設置する。
「8. 暴露防止および保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。常温では安定な物質ではあるが、分解温度以上で酸が発生するので注意する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
火炎に向かって噴射してはならない。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂するおそれがある。
作業環境を許容濃度以下に保つように努める。
指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
加圧容器：使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
大気圧以上の圧力で高濃度の空気と混合したまま放置しないこと。

局所排気・全体換気： 「8. 暴露防止および保護措置」に記載の設備対策を行い、局所排気、全体排気を行う。

注意事項：

- ①用途以外には使用しない。
- ②作業時は、保護手袋及び保護眼鏡等、適切な保護具を着用する。
- ③指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う
- ④アセチレン、窒素酸化物、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- ⑤高圧ガスを使用した製品なので、本体に表示した注意を厳守すること。
- ⑥保管の際は、40℃以上になる所、直射日光に当たる所、サビの発生しやすい所(水周り、高湿度の所等)には置かない。
- ⑦人体に使用しない。
- ⑧締め切った部屋で大量に使用しない。
- ⑨ストーブの近くや高熱が発生する所では絶対に使用しない。刺激臭のある有毒ガスが発生するおそれがある。
- ⑩温風、熱湯による加熱を行わないこと。破裂する危険がある。
- ⑪幼児の手の届かないところに置くこと。
- ⑫缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出するおそれがあるため、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
- ⑬容器は溶接、加熱、穴あけ又は切断しないでください。爆発を伴って残留物が発火することがあります。
- ⑭火気、熱源から遠ざけて保管する。
- ⑮消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
- ⑯全ての安全注意事項を読み理解するまで取扱わないこと。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

保管

- 安全な保管条件： 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
危険物の表示をして保管する。
- 安全な容器包装材料： 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。
容器は溶接、加工、穴あけ、または切断を行うと、爆発を伴って残留物が飛散することがあるので注意する。
アセチレン、窒素酸化物、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策： 屋内作業場での使用の場合は、許容濃度以下になるよう発生源の密閉化または局所排気装置を設置し作業環境の換気を行う。取扱場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明瞭に表示する。「火気厳禁」、「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい個所に掲示すること。

許容濃度

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
潤滑油基油及び添加剤	設定されていない	3mg/m ³ (2006年度) (鉱油ミストとして)	5mg/m ³ (2004年度) (TWA値)
L プロパン	設定されていない	設定されていない	1,000ppm (2007年度)
P ノルマルブタン	設定されていない	500ppm (2005年度)	1,000ppm (2007年度)
G イソブタン	設定されていない	500ppm (2009年度)	250ppm (2009年度)

- 呼吸用保護具： 必要に応じて防毒マスクを着用する。密閉された場所では、送気マスクを着用する。
- 手の保護具： 耐油性(不浸透性)保護手袋を着用する。
- 眼の保護具： 飛沫が飛ぶ場合には、ゴーグル型眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具： 耐油性の長袖作業衣、絶縁性の安全靴を着用する。濡れた衣服は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。
- 適切な衛生対策： 作業中は飲食、喫煙をしない。休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗う。また、休憩場所には、手袋等の汚染された保護具を持ち込んではいない。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

9. 物理的及び化学的性質

製品		噴射剤 (LPG)			原液
		プロパン	ノルマルブタン	イソブタン	
外観	物理的状態:	液化ガス	液化ガス	液化ガス	液体
	形状:	液化ガス	液化ガス	液化ガス	液体
	色:	無色透明	無色透明	無色透明	淡黄色透明
	臭い:	無臭	無臭	特徴的な臭気	僅かな臭気
	pH	データなし	データなし	データなし	該当しない
	融点・凝固点:	-189.7℃	-138℃	-160℃	-50℃(流動点)
	沸点、初留点 及び沸騰範囲:	情報なし	-42℃	-12℃	250℃(初留点)
	引火点:	-104℃	-60℃	<-56℃	260℃(COC)
	自然発火温度:	450℃	365℃	460℃	200~410℃ (参考値)
	燃焼又は爆発 範囲:	2.1~9.5%	1.8~8.4%	1.8~8.4%	1.0%~7.0% (推定値)
	蒸気密度(空気1):	1.6	2.1	2	データなし
	密度(g/cm ³)(水1):	0.5	0.6	0.6	0.892g/cm ³ (15℃)
	溶解度(水20℃):	0.007g/100ml	0.0061g/100ml	水に不溶	水に不溶
	n-オクタノール/ 水分配係数:	2.36	2.89	2.8	データなし
	分解温度:	データなし	データなし	データなし	約260℃
その他のデータ					
流動点	情報なし	情報なし	情報なし	-10.0℃	
分子量	44.1	58.1	58.1	データなし	

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

10. 安定性及び反応性

化学的反応性:	特になし
化学的安定性:	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性:	原液は室温においては酸、アルカリとも容易に反応しない。腐食性もない。 二酸化鉛を配合して加熱すると、急激に化学反応を起こし着火のおそれがある。 ガスは強酸化剤、アセチレン、ハロゲン、窒素酸化物と反応し、 火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件:	高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。 高温表面、裸火との接触を避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質:	アセチレン、窒素酸化物、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と 接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物:	燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
その他:	現在のところ有用な情報なし

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

11. 有害性情報

製品

急性毒性(経口):	原液	ラット LD ₅₀ 5000mg/kg以上 ^{c)}
急性毒性(経皮):	原液	ラット LD ₅₀ 5000mg/kg以上 ^{c)}
急性毒性(吸入:ガス):	原液	ラット LD ₅₀ =2.18mg/L ^{c)} プロパン モルモットLC ₅₀ >55,000ppm/H(ACGIH(7th, 2001)) ノルマルブタン ラット LC ₅₀ (4時間)値は277,374ppm(ACGIH(7th, 2001)) イソブタン マウスLC ₅₀ (1時間)値は124,000ppm(4時間換算値:62,000 ppm)、52mg/L(4時間換算値:11,000ppm)(いずれもACGIH (2004))、であるとの報告に基づき、区分外、区分4に該当する データが各1つであることから、区分4とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:		ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述されている報告がある。 ^{c)}
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:		ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述されている報告がある。 ^{c)}
呼吸器感作性:		有用な情報なし
皮膚感作性:		モルモットを用いたOECD Guideline406に準拠した複数の試験(maximization testを含む)において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。 ^{c)}
生殖細胞変異原性:		1)ラットを用いた細胞遺伝学的試験[染色体異常試験](体細胞in vivo変異原生試験)における異常細胞が増加した。 ^{c)} 2)職業暴露を受けたヒトの抹消血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。 ^{d)} 3)生殖細胞in vivo遺伝毒性試験について有用な情報なし。
発がん性:		日本産業衛生学会(2004年度)、ACGIH(2005年度)、NTP(2001年度)、IARC(2000年度)いずれも発がん性物質としてリストされていない。
生殖毒性:		有用な情報なし。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

特定標的臓器毒性、単回暴露： ヒトへの影響として麻酔作用を示す(ACGIH(7th, 2001))。眠気及びめまいのおそれ(区分3)。[プロパン]

ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol.20(2003)、PATTY(4th, 1994)及び産衛学会勧告(1993)のヒトにおいて高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述から、麻酔作用があると考え、区分3とした[ノルマルブタン]

ヒトにおいて、8人のボランティアによる吸入暴露試験では影響はみられない(許容濃度提案理由書(1998))が、本物質は「心臓におけるカルシウム感受性増強物質」との記載があり(ACGIH(2004)、PATTY5th vol.4(2001))、イヌを用いた吸入暴露試験において、用量70,000ppmで5分間の暴露(4時間換算値:10,083ppm(ガイダンス値区分2の範囲内))により、心筋の強化作用がみられる(DFGOT vol.20(2003))ため、区分2(心臓)とした。また、マウスを用いた吸入暴露試験において「中枢神経系の抑制」(ACGIH(2004))、「麻酔作用」(DFGOT vol.20(2003))との記載、イヌを用いた吸入暴露試験において「感覚消失」(ACGIH(2004))との記載があり、区分3(麻酔作用)とした。なお、「本物質は単純窒息性であり、急性暴露では頻呼吸及び頻拍を起こす可能性がある」(PATTY 5th vol.4(2001))との記載がある。[イソブタン]

特定標的臓器毒性、反復暴露： DFGOT vol.20(2003)のラットを用いた反復吸入暴露試験(イソブタンやペンタンとの混合物)で毒性が認められなかったとの記述がある。一方、DFGOT vol.20(2003)にヒトの麻酔目的での反復吸入暴露例の多くに多幸感および幻覚が見られたとの記述から、中枢神経系に影響する可能性もあるが、他に反復暴露で中枢神経系への影響を示唆するデータはなく、データ不足のため分類できない。[ノルマルブタン]

ボランティアによる2週間吸入暴露試験において、「全般的に大した変化は認められない」(許容濃度提案理由書(1998))との記載があり、サルを用いた90日間吸入暴露試験においても影響は認められない(EMEA/MRL/031(1995))が、試験内容の詳細が不明であり、これらの他に試験データはないため、分類できないとした。[イソブタン]

吸引性呼吸器有害性： 潤滑油 GHSの危険有害性区分の判定基準である40℃で測定した場合の動粘性率が20.5mm²/sまたはそれ以下の炭化水素に該当しない。

噴射剤 GHSの定義による気体である。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

12. 環境影響情報

製品

生態毒性	
急性毒性:	有用な情報なし
慢性毒性:	有用な情報なし
残留性・分解性:	有用な情報なし
生体蓄積性:	有用な情報なし
土壌中の移動性:	有用な情報なし
他の有害影響:	有用な情報なし
地球温暖化係数:	有用な情報なし
大気汚染防止法:	有用な情報なし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法： 1)事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

2)投棄禁止。

3)埋立処分を行う場合は、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

4)燃焼する場合には、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

残余廃棄物

廃棄をする場合には、ガスを完全に使い切り、穴を開けて完全に空の状態にする。

汚染容器・包装

容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

中身を使い切ってから分別廃棄する。

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1
作成： 2010年4月27日
改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

14. 輸送上の注意

IMDG分類 国連分類： クラス2.1 国連番号： UN1950

国内規制：

陸上運送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
危険物第4類第4石油類 危険等級Ⅲ

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法等に定められている運送方法に従う。

輸送の特定の

安全対策及び条件：

- 1) 運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。
 - 2) 指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。
 - 3) 陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。
 - 4) 第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。
 - 5) 輸送用容器(タンカー、タンク車、タンクローリーを除く)は危険物の規制に関する別表第3の2項に定めたものを使用する。
 - 6) その他関係法令の定めるところに従う。
-

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号：150925-1

作成：2010年4月27日

改訂：2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

15. 適用法令

消防法：	第4類第4石油類 危険物等級Ⅲ
安衛法：	通知対照物質(鉱油 168)(プロパン 2-13-48)
水質汚濁防止法：	油分排出規制 ノルマルヘキサン抽出分として検出される。
下水道法：	鉱物類排出規制
海洋汚染防止法：	油分排出規制
廃棄物処理法	産業廃棄物規制(潤滑油基油及び潤滑油添加剤)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)：	非該当
船舶安全法：	引火性高圧ガス
航空法：	引火性高圧ガス
大気汚染防止法：	有用な情報なし
高圧ガス保安法：	適用除外(液化ガス)但し、政令告示並びに 高圧ガス保安一般規則規定に従う。
危険物船舶運送及び貯蔵規則：	有用な情報なし
毒物及び劇物取締法：	非該当
道路法	有用な情報なし
フロン排出抑制法：	非該当
地球温暖化対策推進に 関する法律：	非該当
特定家庭用品機器再商品化法 (家電リサイクル法)：	非該当
化学兵器禁止法：	有用な情報なし

化研産業株式会社

安全データシート

整理番号： 150925-1

作成： 2010年4月27日

改訂： 2019年7月1日

製品名： NASKALUB 420mL, 70mL

16. その他の情報

参考文献等：

- a) 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2006)
- b) 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)“TLVs and BELs 2004”(2004)
- c) International Uniform Chemical Information Database (IUCLID) (2000)
- d) IARC suppl.7(1987)
- e) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans
- f) EC理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I「危険な物質リスト」
- g) 米国産業衛生専門家会議:ACGIH documentation(2001)
- h) IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans
- i) WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1982)

原料メーカー発行のの製品安全データシート

免責文：

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものですから特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱いください。危険性有害情報は必ずしも十分といえませんが、本SDS以外の資料や情報も十分ご確認の上、ご利用くださいますようお願いいたします。